



## 台湾、北京、わたしの星

柴幸男

ひとつめ。台湾に行ってきた。これから数年、台湾でいろいろな仕事をすることになります。小豆島に関わるようになってから「島」に興味を持っていたのでうれしいです。台湾はどこか懐かしい異国です。特に台南はのんびりしていて、ゆるやかな時間が魅力的でした。

ふたつめ。北京に行ってきた。東アジア文化交流使として訪れてから2度目の北京。今回は国際交流基金の企画でワークショップをしました。テーマは「言語」。

ままごとはこれまであまり海外公演をしてきませんでした。その大きな理由に言語の問題があります。まず僕が日本を、日本語を念頭に戯曲を書いていること。もうひとつに「字幕」への違和感。だから今後、海外で上演するにはこれらの問題を解決する必要がありますと考えていました。今回のワークショップは、その実験でもありました。

異国で戯曲を執筆し、多言語が使える参加者と稽古しながら翻訳してみる。劇中に通訳を内包してみたり、複数の言語で同時上演してみる。どれも初めての試みで非常に面白かったです。また、普段は通訳や翻訳の仕事をしている方々と演劇が作れたこともとても有意義でした。(ちなみに)

僕たちの中では通訳という作業は非常に演劇的だという話になりました)

みつめ。三鷹でたくさんの方の高校生たちと出会ってきました。3年前、高校生たちと作った『わたしの星』を今夏、再演します。かつての高校生たちはもう誰も高校生ではなくなりました。だから新たな高校生キャストとスタッフに出会うべくオーディションと面談をしてきたのです。

初演時、僕にはひとつの妄想がありました。全国の高校生が『わたしの星』を自分たちの部員や舞台に合わせて、好き勝手に上演する。だから僕はその妄想に合わせて、登場人物を高校生にしぼり、特殊な演出がなくても作れるように一幕物にしました。

あれから3年。ありがたいことに多くの高校生がこの作品を上演してくれました。そんなわけで『わたしの星』は一定の役割を終えたと考えます。今年僕がこの戯曲を好き勝手に上演します。オーディションには魅力的な高校生たちがたくさん、集まってくれました。キャストもスタッフも悩みに悩んで決めました。みな若いけど、頼りになる仲間たちです。だから、この夏は僕も高校生に戻ったつもりで今、一番作りたい演劇を彼らと作ろうと思います。

というわけで、今年はまだか忙しくなりそうです。よろしくお願ひします。

# 東京のまちに

## 出てきました、再び。

加藤仲葉

相変わらずあちこち行っていますが、今は東京にいます。2017年、年が明けてからは愛知・穂の国とよはし芸術劇場PLATでの市民劇に関わっていました。作・演出・音楽に FUKAIPRODUCE 羽衣の糸井幸之介さん、ドラマ トウルクに木ノ下歌舞伎の木ノ下裕一さん、振付に木皮成さん。そ

して同じく羽衣の深井順子さんと総勢14名の市民の皆さんが出演した市民と創造する演劇とよはしの街の物語『はしっ子』。この企画は2年計画で進行中。来年2018年3月に更にパワーアップした形で上演する予定です。お楽しみに！

そして3月から5月にかけては、木ノ下歌舞伎『東海道四谷怪談―通し上演―』の制作につ

いていました。上演時間約6時間、総勢20名の素晴らしい俳優と、頼もしいスタッフによって創り上げられたこの作品。無事、京都・東京での公演を終えました。ご来場くださった皆様、ありがとうございました！

そしてこの夏上演する『わたしの星』再演も出演者ならびにスタッフ、決定！ ままごとの劇団員になって初めて関わった初演の『わたしの星』。あれから3年かあ……と流れた月日に思いを馳せつつ、その間に重ねたさまざまをぎゅっつとつめ、新たなメンバーと共に『わたしの星』お届けできたら、と思っています。楽しみに待っててください！

## 映画の中にある、

### 記憶の欠片

宮永琢生

2017年3月。「ままごと」が、一昨年の夏に『わが星』を上演させて頂いた小豆島高校の閉校記念式典が行われ、この式典に併せて『わが星』小豆島公演のドキュメンタリー映画『星の記憶―わが星@小豆島滞在記―』が上映されました。蝉の鳴き声、体育館、台風、高校生、歌、校庭に現れた大きな虹。1920年に小豆島高校が設立されてから約100年の歴史の中で、この作品に映っているの

はほんの一瞬の風景や時間です。今回の上映を見届けてくださった皆さんの脳裏に、それぞれの小豆島高校での思い出や記憶の欠片を映し出すことが出来たのだとしたら、この作品は本当の意味で《映画》として生まれる意味があったのではないかと。そんなことを考えながら約2時間の上映は終了しました。今回の上映を企画してくれた小豆島高校PTAの唐橋幹隆さん、大切な日に快く上映の機会と場所を与えてくださった小豆島高校の先生方、そして監督の池田美都さんに心より感謝します。

この映画は、これからも小豆島の未来を創造しながら全国での上映の機会を探っていきたいと思っています。

2018年4月、私はこの島への移住を考えています。小豆島高校だった場所は、再び人が集う場所として再利用の方法を現在検討中とのことです。この場所がこれからどのように使われ、誰の記憶に残っていくのか。これから私の目を通して、小豆島から生まれる《記憶》をこの新聞をご覧の皆さんにお伝えしていけたらと思っています。



4月8日、「わたしの星」チラシのロケハン先にて。



いつかの記憶の中にある坂手の夕暮れ。(宮永)



台東区の老舗銭湯「燕湯」で上演された スイッチ総研「上野御徒町 燕湯スイッチ」(大石)

## 上京10年、これから

大石将弘

2017年明けてからの盛りだくさん。1月。口口の「いつ高シリーズ」新潟公演に出演。スイッチ総研「上野御徒町 燕湯スイッチ」では老舗銭湯を借りて「スイッチ」を上演しました。2月。スイッチ誕生の地、横浜にて「象の鼻スイッチ」上演。スイッチ誕生の秘密や、スイッチ総研設立以降13都市20公演

を行った2年間の軌跡を振り返る特別展示を同時開催。2月末には、第1回「下北沢 本多劇場祭り」に企画・運営で参加。劇場のロビーや楽屋、舞台袖、調光室などを開放し、様々な出し物が上演されるお祭りを開催。3月には、口口「いつ高シリーズ」東京公演で再び高校生役をやりました。2017年4月。特にスイッチ総研立ち上げ以降あわただし

かった時期を経て、ぱたりと落ち着いたところ。地元から東京に出てきてちょうど10年。ずっと先送りしてきたことを、はじめたり進めたりしたいと思っています。来年、3年後、それから先のための準備。多摩美の柴幸男ゼミで今年も非常勤講師をやらせてもらえるのですが、若い俳優たちと過ごすことが、自分のこれまでを振り返り、整理して、その先を望むためのとても良い機会になっています。

## 音楽や

## 子どものことなど

端田新菜

今年は、なんだか音楽よりの仕事が多いようです。3月11日に、徳永京子さんプロデュースの『演劇人の文化祭』で、大谷能生さんと中野成樹さんによるチエーホフの『かもめ』をラップするヒップホップユニット『みずうみ』のニーナとして、6年ぶりに歌って踊りました。翌3月12日には『こどもと音楽の未来をつくる』というイベントで、なごやゆりちゃんと権頭真由ちゃんのユニットに混ぜてもらい、私はせんべい大学ぬれせん専科ぬれ先生としてぬれせんべいタンゴという曲を

作って子供たちの前で歌いました。4月23日には京都で父が10何年か振りにステージに立つということになり、「お前はこの業界のことわかってへんやろけど、そんなことでは一人前のマネージャーにはなれへんぞ」と罵られつつ、素晴らしいステージングを見届けました。そして5月3日には『こどもと音楽の未来をつくる』があって、またゆりちゃんと歌ったり踊ったり劇したり...。そんなゆりちゃんとは、小豆

島で2013年からやっていた『ままごとさんと遊ぼうよ』という活動を継続的にやるために、ままごとの内部にpacoというチームを作る準備もしています。play/all/child/oldで、paco。名前の由来は小豆島でままごとが活動拠点とさせていた、遊児老館(ゆうじろうかん / 旧坂手幼稚園)です。こんな日々の中で、子育てと演劇の両立についても、いろいろ考えています。そんな話もまたいづれ。



3/11演劇人の文化祭にて「みずうみのとなり」トリゴリン(中野成樹さん)とニーナ(端田) 撮影:新藤みなみ

# 『わたしの星』再演、 高校生キャスト+ 高校生スタッフ決定！

3月28日から4月2日にかけて、ままごと『わたしの星』のキャスト+スタッフオーディションが行われました。初めて演劇に触れるという方から高校以外の演劇活動をしているという方まで、さまざまな応募者が居る中、全員で台本を読み合ったり、短い台本を使ってグループごとに劇を立ち上げたりすることでワークショップ・オーディションが行われました。緊張感もありつつも、応募者のみなさんも楽しみながら参加していたようです。



Photo : Hamada Hideki

そしてキャストスタッフ合わせて50名を超える応募者の中から、最終的な選考を経て、10名のキャストと7名のスタッフが選ばれました！

稽古は4月から少しずつ始まり、8月の上演に向けて進んでいきます。新たなメンバーと共に送る『わたしの星』、どうぞご期待ください！

ままごと『わたしの星』再演

2017年8月17日【木】

↓27日【日】(全12公演)

三鷹市芸術文化センター 星のホール

## 《CAST》

池田衣穂、太田泉、須藤日奈子、関彩葉、田井文乃、土本燈子、成井憲二、日比菜那、札内萌花、松尾潤

ワークショップオーディションの様子。

《STAFF》  
圓城寺すみれ、大鋸塔子、小笠原里、谷川清夏、塚田真愛、鶴飼奈津美、松川小百合

詳しくは、ままごとWEB  
([www.namagoto.org](http://www.namagoto.org))にて。

## NEXT

シベリア少女鉄道 vol.28 『たとえば君がそれを愛と呼べば、僕はまたひとつ罪を犯す。』

◇大石将弘【出演】

2017年5月24日【水】-6月4日【日】

@赤坂RED THEATER

<http://www.siberia.jp/stage/>

劇団しようよ「あゆみ」再演

2017年6月1日【木】-5日【日】

# 劇団しようよが、 『あゆみ』と『TATAMI』を上演！！

京都の劇団しようよが、5・6月「あゆみ」と『TATAMI』を上演。京都公演はアトリエ劇研で行われ、東京公演はこまばアゴラ劇場での上演となります。上演に向けて、劇団しようよの大原渉平さんにコメントをいただきました。

京都で『あゆみ』と『TATAMI』を上演させていただきまます。高校で演劇をはじめたから、これまでに他者の戯曲を上演したことなんて一度もなかったたので、他者の言葉の重みとそれを扱う責任を感じています。

『あゆみ』は再演となり、今回も男性俳優のみで上演します。当初は男性俳優のみという思いつきからスタートしたのですが、戯曲を読んでいるうちに「この物語の少女を見ているのは誰なんだろう、その少女へ向けられる眼差しそのものを描けないか」と思いました。劇団しようよ版『あゆみ』では少女の成長を見つめ



る、男たちの眼差しから、物語の枠を超えて、どこかであゆみ続けている／あゆみ終えた少女の幻を描きたいと思っています。

『TATAMI』は会場であるアトリエ劇研の閉館を背景に、おわり、ということを考えていると思います。『あゆみ』と『TATAMI』の2つの物語から、「いま」という時間をどう捉えようか、そんなことを考えたいです。『あゆみ』はこまばアゴラ劇場にもお邪魔します。なんと作者の柴さんも出演してくださいます。(劇団しようよ 大原渉平)

@こまばアゴラ劇場  
<https://www.gkd-444.com/next/>

KUNIO13『夏の夜の夢』

◇大石将弘【出演】

2017年8月23日【水】-27日【日】

@あうるすぽーと

ままごと『わたしの星』

◇柴幸男【作・演出】  
◇加藤仲葉【制作】  
2017年8月17日【木】-27日【日】  
@三鷹市芸術文化センター 星のホール  
□編集後記 2017年初めての号でした。今年はいままごと、それぞれのメンバーが活動します。応援よろしくお願ひ致します。記念すべき次号、20号もお楽しみに。(熊井)